江の島の晩秋の風物詩「湘南キャンドル」は、江の島シーキャンドル、サムエル・コッキング苑に総数約7、000基のキャンドルが灯されます。地元のミュージシャンのライブや写真家によるスライドショーも開催され、すてきな音楽とやわらかいキャンドルの灯りに包まれます。

6月6日より藤沢リラホールにて「ムーサキャンドルコンサート」が4回シリーズで開催されます。演奏家は地元に縁の深い方ばかり。時間は夕刻7時から1時間。1日の終わりに、地元でくつろぎながら、いい音楽に触れ、楽しんでいただくにはとても良い時間です。

江の島コッキング苑の「湘南キャンドル」を応援する試みとして、湘南―キャンドル―素敵な音楽を繋ぐイベントです。第1回目の開催を控えて、地元の音楽愛好家である方々に「音楽の楽しみ」について語っていただきました。

【参加者】
川久保純子氏（ピアニスト）
秦野　寛氏（ルミネはたの眼科院長）
広浜哲哉氏（大庭山賊男星合唱隊代表、指揮者）

【司会】
舟木久留美（江ノ電沿線新聞社）

音楽は幸せに導くもの

司会　「ムーサ」はミューズのギリシャ語です。ミュージックの語源であるミューズは、ギリシャ神話で人間のあらゆる知的活動を司る女神たちと言われています。皆さんの音楽との出会い・音楽の魅力など、自己紹介と合わせてお話しください。

川久保　ピアニストです。ピアノ一筋に生きてきました。母に勧められて子供の頃通ったオルガン教室が音楽の道に入った始まりです。相性がよかったのか練習が苦ではなく、ピアノの個人レッスンに変えると、あれよあれよと思う間に上達し、桐朋音楽教室に通うようになりました。子供のエリート集団のような環境の中で、当たり前のようにスパルタ教育を受けました。今になると「よく続いたなー」と思います（笑）。

高校時代は芸術に力を入れた学校に通っていたので、いつも音楽が身近にあります。中学校時代の教科書に鑑賞曲として入っていたベートーヴェン（田園交響曲）を先生にフルボリュームで聞かせて貰った時、そのシンフォニックな響きに全身に衝撃が走りました。それが音楽を始めたきっかけかもしれません。元々音楽への憧れがあり、運動部だった私には、運動会のブラスバンドがキラキラ輝いて見え、練習の様子を横目に地味に筋トレに励んでいたのを思い出します（笑）。

その後高校、大学と進む間、クラシック音楽好きの友人や兄の影響から、当時放送していたNHK FMのラジオ番組（オペラアワー）を聴いていました。また、通学途中の楽器店のショールームに飾ってあったヴァイオリンに惹かれ、「置物」として買ったことが、ヴァイオリンを始める契機になりました。その後、横浜交響楽団ジュニアオーケストラに入れていただき、次いで15年ほど在団した藤沢市民オケではメキシコ演奏旅行などにも参加できました。今は江ノ電沿線新聞のリラ弦楽アンサンブルに参加しています。

長い間音楽に携わってきましたが、やはり「音楽の原点」は難しいことではなく「いい気持ちになり、元気をもらい幸福な気持ちになる」ことだと思います。

辻堂生まれの辻堂育ちです。子供の頃からヴァイオリンを習っていたこともあり、音楽は身近なものとして育ちました。また藤沢は地域性もあり、戦後の音楽文化を推奨する人がいて、鈴木メソードなど才能教育が盛んでした。PTAに文化人もいましたから。

当時辻堂海岸地区には広い別荘が多く、練習場所として利用されていました。発表会は旧藤沢医師会館で行われたことを思い出します。母校の小学校も音楽教育が盛んで、ハーモニカなど楽器と一緒に合唱を習い、その時、腹式呼吸を教わりました。

また、小6の頃、ラジオから流れてきた美空ひばりの歌を聴いて「歌手になりたい」と母に話し、紹介された先生からコールユーブンゲンやコンコーネなどで基礎を学ぶことができました。

川久保さんと同様に、湘南の風に吹かれながら、音楽教育が盛んだった学校で楽しく学んだので、「芸術科OBのコンサートをやるから手伝って」と言われると、即、体が動いてしまいます（笑）。音楽は常に側にあるもの。また湘南との相性の良さは身を持って感じているところです。湘南には「逸材を育てる環境」があると同時に、世界の流れに沿ってやってみたくなる空気がありますね。

キャンドルの神秘的な美しさと音楽の不思議

川久保　ルノワールの絵画「ピアノを弾く若い女」にはピアノの両サイドの燭台にろうそくが立てられていて、1890年代の素敵な雰囲気が醸し出されていますね。キャンドルコンサートは、神秘的な響きがあり、演奏者と聴衆とがより一体化されるような気がします。演奏家はそのためにも日々練習を重ねているのですが、裏話はいろいろあります。ピアノは暗譜するのが当たり前になっていますが、他の楽器とは比較ができないほど音符を覚えなくてはならず、皆、苦労しています。譜面の一部に小さなシミをみつけて覚えるヒントにしたり…（笑）。そもそも、暗譜の文化を作ったのはリストなんです。彼はハンサムでカッコよく、今でいうアイドルだったので、スマートさをアピールするために楽譜なしで弾いたことが慣習になり、ピアニストの苦悩が始まったのです（笑）。

秦野　キャンドルは幻想的で不思議な世界を作りますが、音楽も長く続け、慣れ親しんでくると、また新たな発見があります。

ドイツの哲学者（数学者）ライプニッツは「音楽は数学」と言い切りました。周波数と倍音との関係などを考えると、理解できますし、やはり行き着く先は「数」でしょうか。バッハの楽譜を見ていると図形にも見えてきます（笑）。

また、初めての曲は解説や先入観なしで聴きたいですね。曲自体が持つ赤裸々なものが感じられます。ベートーヴェンの「第5シンフォニー」は日本では「運命」として定着していますが、本来はロマンティックな曲です。解説が偏ったイメージを作ってしまった残念な例と言えます。

さらに、眼科医の立場から、惜しくも視力を失ってしまった方への道案内は「音楽」です。音楽はクラシックに限らずどんなジャンルでもいいのです。幸せな気持ちにさせてくれる不思議な力があります。

広浜　確かに「音楽は数」と言えます。好きでジャズをやっていますが、ジャズは正に「数の組み合わせであり、クールな数学」です。心地よい音楽を奏でるには、一小節の中で、いかに上手に「ずらす計算」をするかです。付け加えたいのは、「音楽は裏切らない」ということ。最初に強烈に感じたものは簡単には変わりませんから。

「ムーサキャンドルコンサート」が実現！

川久保　ピアニストにとっては計算というより、聴衆の方々に感じてもらうにはどう表現したらよいかと、常に考えながら弾いています。クラシックは「敷居が高い」「分からない」と言われがちですが、音楽は自由に聴いて下さい。そうしたら聴く方各々の土壌で育ちます。

司会　音楽を愛する皆さんの湘南ならでは…の生の声をお聞きすることができました。音楽の持つ「不思議な力」を今年の「ムーサキャンドルコンサート」から感じていただきたいと思います。

※第4回公演のアンサンブルは4人の組み合わせを色々変えて、ここでしか聴くことができない曲になっています。お得なチケットを用意していますので、ぜひ全回お聴きいただきたいと思います。

【日時】
第1回　6月6日㈭19時～
ピアノ　川久保純子
第2回　7月4日㈭19時～
ピアノ　高橋愉紀
第3回　9月5日㈭19時～
ヴァイオリンとピアノのデュオ　秦野陽介
第4回　10月19日㈯14時～
アンサンブル。ハープの小堀真梨を加え4人
（各回約1時間）
【会場】藤沢リラホール
※コンサートの詳細は、4面下部広告にて

川久保純子さん
（ピアニスト）

秦野　寛さん
（ルミネはたの眼科院長）

広浜哲哉さん
（大庭山賊男星合唱隊代表・指揮者）